＜人＞　車　道路

４月の 安全運転のポイント

平成 27 年 4 月号

警察庁の発表によると、平成26年の交通事故による死者数は4,113人で、14年連続の減少となるとともに、発生件数および負傷者数も10年連続で減少しました。そこで平成26年の交通死亡事故の主な特徴をまとめてみました。（資料は、警察庁「平成26年中の交通死亡事故の特徴及び道路交通法違反取締り状況について」による）

平成26年の交通事故発生状況

発生件数 ＊　573,842件（前年比－55,179件　－8.8%）
死者数 ＊　4,113人（前年比　－260人　－5.9%）
負傷者数　711,374 人（前年比－70,120 人　－9.0%）

＊発生件数とは、人身事故件数をいい、物損事故は含まれません。

＊死者数とは、交通事故発生から24時間以内に死亡した人数をいいます。

65歳以上高齢者の死者数の３分の２は「歩行中」と「自転車乗用中」の事故

年齢層別に死者数をみると、65歳以上の高齢者が2,193人で（図 １）、全死者数に占める割合が53.3%と過去最高になりました。

また、65歳以上の高齢者の死者数を状態別にみると、歩行中が1,063人(48.5%)、自動車乗車中が600人(27.4%)、自転車乗用中が345人(15.7%)、二輪車乗車中が179人(8.1%)となっており(図２)、歩行中と自転車乗用中を合わせると３分の２近くを占めています。歩行中の高齢者はもとより、高齢者の乗った自転車にも十分目を配り、高齢者を事故から守りましょう。

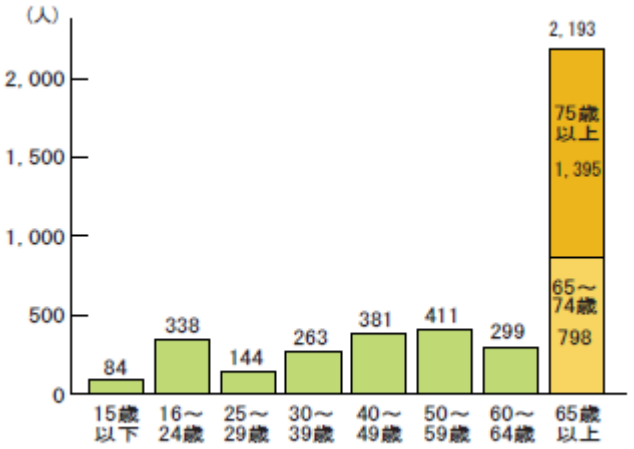

図１　年齢層別死者数(平成26年)

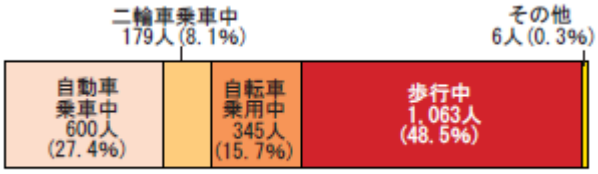

図２　65歳以上の状態別死者数(平成26年)

「工作物衝突」が前年より増加し「横断中」に次いで２番目に多い

死亡事故件数を事故類型別にみると、車両相互が1,575件(39.2%)、人対車両が1,444件(36.0%)、車両単独が961件(23.9%)となっています(図３)。

最も多いのは、人対車両の「横断中」の1,026件(25.6%)で、全体の４分の１を占めています。次いで車両単独の「工作物衝突」621件（15.5%)、車両相互の「出会い頭衝突」543件（13.5%)となっています。

走行中は横断歩行者に十分注意をするとともに、ハンドルやブレーキ操作を適切に行って、ガードレールや電柱などの工作物に衝突することのないよう慎重な運転を心がけましょう。

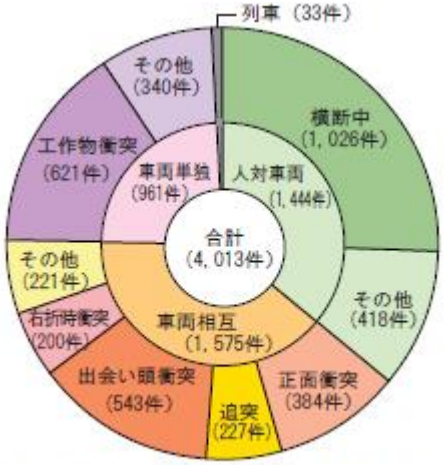

図３　事故類型別死亡事故件数(平成26年)

死亡事故は信号機有の交差点より信号機無の交差点のほうが多い

死亡事故件数を道路形状別にみると、交差点内が1,432件（35.7%）、交差点付近が493件（12.3%）を占め、交差点内と交差点付近を合わせると48.0%となり、死亡事故の半数近くが交差点内とその付近で発生しています(図４)。

交差点内について信号機の有無別でみると、信号機無が信号機有よりも多くなっています。特に信号機のない見通しの悪い交差点では、一時停止や徐行をして安全確認をするといった基本を守った運転を心がけましょう。

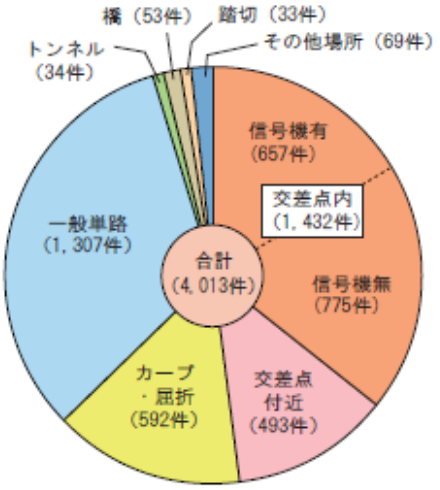

図４　道路形状別死亡事故件数(平成26年)

「漫然運転」や「脇見運転」による死亡事故が多発している

原付以上運転者が第１当事者となった死亡事故件数を法令違反別にみると、「漫然運転」が651件（17.9%）で最も多く、次いで「脇見運転」510件（14.0%）、「運転操作不適」411件(11.3%)となっています(図５)。

これらはいずれも「安全運転義務違反」といわれるものですが、漫然と運転したり脇見をすると、周囲に対する注意力が薄れ、危険を見落としたり発見が遅れてしまいます。ハンドルを握ったら運転に集中し、走り慣れた道路であっても決して油断したり気を緩めることなく、周囲の状況にしっかりと目を配って走行しましょう。

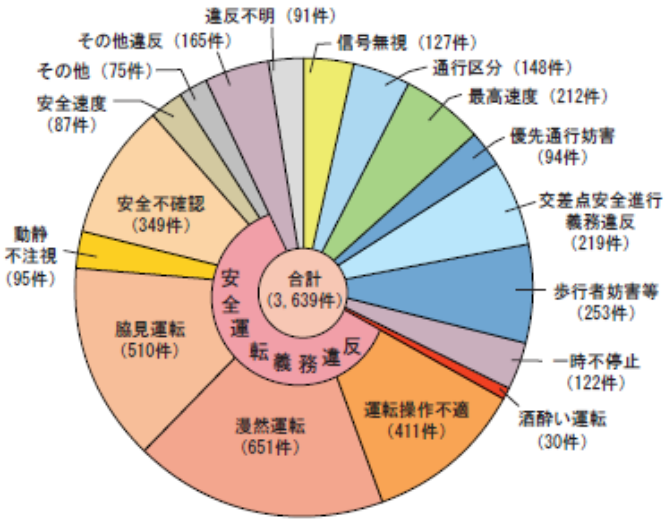

図５　原付以上運転者(第１当事者)の法令違反別死亡事故件数(平成26年)

昼間は自動車乗車中夜間は歩行中の死者数が多い

死亡事故件数を昼夜別にみると、昼間が1,994件（49.7%）、夜間は2,019件（50.3%）、死者数についても昼間が2,051人（49.9%）、夜間が2,062人（50.1%）と、いずれもやや夜間のほうが多くなっています(図６)。

状態別に昼夜の死者数をみると、昼間は自動車乗車中が多いのに対して、夜間は歩行中が多くなっており、夜間の死者数の半数を占めています。夜間は特に歩行者への注意が必要です。

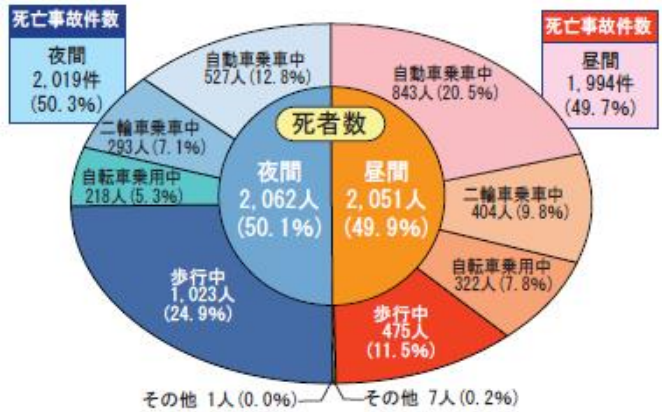

図６　昼夜別の死亡事故件数と状態別死者数(平成26年)

「ご相談・お申込先」

〒530－0017

大阪市北区角田町8－47　阪急グランドビル16階

TEL　０６－６２３２－８８９７　　FAX　０６－６２３２－８８０９

※イラストの二次利用はご遠慮願います

〔制作〕株式会社インターリスク総研　交通リスクマネジメント部　交通リスク第一グループ